



感性を磨かせてくれた 母校

和田剛直（わたただけなお）

和田興産株式会社 専務取締役
1996年・社会学部卒

関

西学院中学部から大学まで、上ヶ原キャンパスにお世話になりました。関学と言えませんが、ウイリアム・メレル・ヴォーリズ氏が設計したスパニッシュ・ミッドジョンスタイルの校舎群と緑で覆われた日本に有数の美しいキャンパスを思い浮かべる人が多いでしょう。

小学校6年の時の担任に私学受験を勧められたのですが、当時の私は視野が狭く淡々と日々を過ごしている生徒でしたので、どの私学が自分自身に合うのかと言われても実感が湧きませんでした。親は予定外の経済負担となりますから相当な覚悟があったかと思います。母親に「今日はクワンガクという学校



土壌は 関学の鷹揚な自由さ

蟻田剛毅（ありたごうき）

株式会社シユゼット代表取締役社長
1998年・法学部卒

「わ

たしの関学青春時代」の始まりは高等部に入学した15歳の春。中学まで公立校で過ごした私にとって関学の現実はまだにカルチャーショック。中学部からの同級生は雑誌から出てきたような出で立ちで、女子高生と待ち合わせて西宮北口でお茶。文化祭では信じられない数の女子高生が上ヶ原に集まり、まるでアメリカの青春テレビドラマ。自分もそれに頼りに頑張りましたが、まあ無理。文化祭の日の夜は残念ながらほぼ毎家で夕食でした。

ただ、いわゆる華やかな「KGボーイ」の陰で私同様に苦杯をなめる「裏KGボーイ」風も多く、そんな人はそれぞれ好きな世界に入り込んでいました。普

に行つてみようか？」と、須磨の山奥の自宅から、何度も乗り換え2時間もかけて甲東園駅に到着。私は思わず「毎日、通学するのは無理やで」と言つてしまいました。困った表情をした母親は引き下がることも出来ず、学校を見てから結論を出してみようかと私を論じたのを覚えています。学校に近づくにつれ、お碗型の山を背にした時計台がある建物の姿が、時計台の前の緑の芝生を囲むように整然と並んだ外国風の建物と並木が・・・私にとっては見たことのない風景が広がりはじめました。その時点で私は志望校と決めました。

現在、分譲マンション企画事業が主である不動産会社に勤務

通（？）の学校ならオタクで片づけられる人種も当時の関学では「何か変わった面白いヤツ」と許容される雰囲気があり、本当に自由に己の道を行っていました。

大学ではそんな仲間内で野球サークルを作りましたが、これがけつたいなチーム。サークルなのにスクイズやサインプレー、送りバントも多用して作戦で勝つことをひたすら研究する。高校野球の経験者も殆どいないのに勝率は7割超え。他のサークルから「やらしい」と半笑いで呆れられました。個人成績も細かくつけて、架空契約更改までやった記憶が。私の額はチーム5番目位でしたが、年俵ダウン提示に真剣に怒る大人気

なき。面白かったのですが、熱くなりすぎてチームを4回生の時に叩き出されました。今は自分の非が分かりますが、若いというのは恐ろしいですね。社会人になって許しが下り、同窓会に呼んでもらえてありがたかったです。

現在は父の会社を継いで経営する立場です。突き詰めてやるタイプだと思えますが、そのスタイルは好きな世界に入り込む関学青春時代に築かれたのです。また数字や統計も好きですが、データに対する関心は野球のデータ処理が関係している可能性が高い。自由な校風と言われる関学ですが、私の土壌は間違いなくその鷹揚な自由さに培われたと思います。